

藤島地域「市長と語る会」

地区活動センターは地域住民が使用するもので、商売で使う、政党活動で使う以外はすべて無料だ（榎本市長）

藤島地域で「市長と語る会」が17日、藤島地区活動センターで開かれました。

主催は藤島町内会長会連絡協議会（相馬一廣会長）です。

市長講話の後、質疑がおこなわれ、予定していた4項目について懇談がおこなわれました。

住民の茶の間

その後、その他の質疑・意見交換に移り、会場から石川勝雄さん（上町）が地域活動セ

ンターの利用について質問されました。

「かつて公民館は住民の茶の間という感覚で、多く利用してほしいというものであったが、名前が変わっても目的は同じだと認識している。しかし、使い悪くなった。金がかかると評判が良くない。評判が良くないことは行政上マイナスなことになるから考えほしい。」

政党や商売以外は無料

これに対して榎本市

長は、「地域住民が使用するもので、商売で使う、政党活動で使う以外はすべて無料だ」と明確に答えました。

つまり、どんな団体かや登録団体かどうかは問わないで、商売上や政党のためかを確かめることで、それ以外はすべて無料で使用できるといふことです。

藤島ふれあいセンターも

「市長と語る会」で市長が直接、市民に答えたことですから、現

場の管理者も無料を徹底するべきです。地区活動センターだけでなく、藤島ふれあいセンターについても、条例で「住民の自主的活動を推進し、住民の福祉の向上と総合的なまちづくりを図るため」という設置目的に沿えば使用料は無料となっています。

9月議会総括質問でも「無料」と答弁

本年9月議会の総括質問で、加藤鉦一議員が公共施設の使用料無料化の徹底を求めたのに対し、市長は次のように明確に答えています。

榎本市長「使用料については、公民館など市の公共施設において、その施設の設置目的によるが、利用者及び利用目的が同じであれば、施設によって使用料が大きく変わらないうように均等を図っており、公民館がコミュニケーションセンター等になったことにより、利用者の負担が大きく変わるものではないと考えている。

コミュニケーションセンターの使用料については、地域住民で組織する団体であれば、体育施設を除き、基本的に

無料とし、より多くの地域の人々から利用いただきたいと考えている。

施設の有効利用を図る等の観点から、地域住民以外の団体にも使用料を頂戴した上で利用頂いているが、他の公共施設との均衡を図りながら、生涯学習の普及や芸術文化の振興等に配慮し、使用料の減免措置を講じている。

これらコミュニケーションセンター等は、地域自治組織を指定管理者としており、地域の実情に精通している指定管理者とも密に連携し、地域活動の拠点施設としての機能がより発揮されるよう、今後もこれまで同様適切な運営に努めていく。」

懇談テーマ4項目

- なお、市長と語る会での懇談テーマは次の4項目でした。
- ① 「少子高齢化社会に向けて地域社会の活動をどのようにしたら良いか」（相馬一廣・三和町内会長）
 - ② 「鶴岡藤島間道路（藤島バイパス）建設促進について」（押井喜一・宝徳町内会長）
 - ③ 「長沼地区の河川管理について」（大沼政雄・宮東町内会長）
 - ④ 「鶴岡市軽度生活援助事業」の制度化について」（土田英喜・藤の花町内会長）



会場から質問する石川勝雄さん



答弁する榎本政規市長

藤島城跡の堀のかいぼり実施 側溝に水が流れません

中町の住民から「21日にどか雪が降り、側溝に雪を捨てようとしたら水が流れていない」

と声が届きました。藤島庁舎では、12月上旬から市指定文化財「藤島城跡」堀のかいぼりを実施しており、給水を停止しているためです。

実施期間は来年3月下旬までです。12月15日に給水停止し、堀の排水栓を解放し、貯留水を汲み上げ、16日に魚介類の捕獲、ゴミ等の撤去、貯留水

の汲み上げを完了しました。

一定期間、堀底を天日干しすることで腐敗防止効果を期待しています。

藤島城跡の堀は前回の浚渫から20年以上経過し、この間、水質浄化と汚濁防止のため、空心菜の設置による浄化実証実験や水車による攪拌等の対策を行ってきました。

今回、「かいぼり」を実施することにより、実施前後の水質調査を実施し、その効果を検証していきます。

鷲畑山古墳 1号第2次発掘調査報告会

とき 1月27日(火) 13:00~14:30
ところ 藤島地区地域活動センター2F (旧藤島公民館・64-2119)
講師 「発掘きっかけに変わった私」 富樫有里さん(鶴南高通信制)
「鷲畑山古墳群のロマン」 青山崇さん(発掘調査会事務局長)

安倍首相お礼の宴会

NHK・日本テレビ・朝日・毎日
・日経・時事通信の編集委員らと
―「しんぶん赤旗」を読んで― 青山崇



しんぶん赤旗12月18日付



→沖縄タイムス12月15日

先号で非民主的な小選挙区の廃止を指摘した。荘内日報10日付『一日一題』「今の選挙制度では民意は生きず」は、加藤氏の7万9872票に対し、落選4氏の合計は10万6478票、加藤氏を2万6606票上回るも「死に票」になったとして選挙制度改革を訴えている。健全さに拍手を贈りたい。

ところが、しんぶん赤旗18日付『とくほつ特報』を見て驚いた。

開票日から2日後、大手マスコミの編集委員らが、安倍首相に招かれてすし店で宴会、参加者は手土産を持って出て来たという。自民党は選挙直前、マスコミ各社に「街の声など公正に」など細かな項目を上げ「中立・公平の報道」をと異例の申込をしていた。効果てき面、公示直後に「自民300を超す勢い」、開票後は「自公圧勝」が各紙面でおどった。



みな同じ声だろうか

今どきオバケの話でナンですが、俺が小学生の時代、少年団で夏休みにキモダメシというものがあつた。

▼上町にはお寺が4つあつて墓場は2つあるんだ。懐中電灯を持って数人で火葬場前まで行くものだった。

▼途中に安全のため先輩が居たようだが、オドシたりはしなかったから無事火葬場へ行って帰ってきた記憶だ。

▼途中で誰かがオドシていたらどんな声を出しただろう。みな同じ声だろうか。いや皆ちがうと思うんだ。肝のすわった子、大きな声を出す子、ビククリして声の出ない子。色々あるだろうし、それは当然だろうよ。

▼ところがすっかり同じなのが選挙結果を知らせる新聞の見出しだ。自公圧勝、3分の2確保でしょう。何か別の

そして2つの民意は隠された。首相が直接、志位委員長に「自共対決だね」と耳打ちした当の相手・共産党が8から21議席へ激増。2つは沖縄での知事選に続く完勝である。沖縄の無一の親友から『沖縄タイムス』(地方紙で「山新」に相当)が届いた。上面見出しに「反辺野古4氏当選、自民候補全敗」「新基地推進政権に打撃」とあつた。

書き方ないんですか。しかも自民党は前回より議席を減らしているんだぜ。

▼それに対し日本共産党は2・6倍に増えているんだ。昨年7月の参院選でも同6月の東京都議選でも倍加は見出しになっていったんだが、なぜなんだ。

▼ここに俺はオソロシサを感じたのだ。自由な表現が許されないか、権力の統制が入っているんじゃないか、と。

▼選挙中に秘密保護法が公布されたでしょう。本当のことが伝わらなくなる気がしませんか。選挙報道をテレビなどに自民党が口を入れたとの報道があつたでしょう。そのうち口を入れた事もニュースにならなくなるぜ。

▼ドースル。恐ろしいでしょう。そして人権を抑え戦争へと、いつかきた道になるかも。勝たせすぎは注意をだ。

(石川)